

李登輝学校同窓生など百余名が参加

靖国で蔡焜燦先生を囲む会

本会事務局次長

富澤 賢公



「靖国神社の歌」を一緒に歌う蔡先生ご夫妻

四月二十二日、靖国神社の春季例大祭に参列された、司馬遼太郎の『台湾紀行』で一躍有名になった「老台北」こと蔡焜燦先生とご夫人を囲む会が、蔡先生有縁の方々及び李登輝学校日本校友会を中心に百名余が参加して、靖国会館「偕行の間」にて盛大に開催されました。

ほとんど宣伝もしなかったのに、遠く北海道、岩手、新潟、福井、滋賀、栃木、山梨などからも馳せ参じ、かくも大勢が参加したということは、蔡先生のお人柄と、日ごろの日本人への愛情に対して、敬愛の念を持つ日本人がいかに多いかということの証でもありました。

本会の袖原正敬事務局長が司会を務め、小田村四郎会長の挨拶、蔡焜燦先

生の答礼、昼食会、宴会の運びとなりました。参加者の蔡先生への挨拶が列を成し、蔡先生はなかなか満足に食事も摂れない状況でした。

蔡先生のご挨拶の中で、『総合教育讀本』の復刻版を出版された目的をふたつ話されました。ひとつは、近代的な教育設備をもった清水公学校を誇りに思ったこと、ふたつめは、このような学校を台湾に作った日本人として、もっと自信を持つてもらいたいこと。ここにも、蔡先生の日本に対する思いやりと期待が感じられました。

蔡先生と縁のある、ソプラノ、バリトン歌手の素晴らしい歌唱、皆で歌った「赤とんぼ」「浜辺の唄」「花」、蔡先生ご夫妻による「靖国神社の歌」のデュエット、蔡先生の夫人もなかなかの美

声の持ち主でした。奥ゆかしい夫人の姿に、大和撫子を垣間見ました。夫人に優しい蔡先生の気配り、目配り、まさにおしどり夫婦の見本でした。

蔡先生曰く、「その資格はないけれど、どうしても靖国神社に鎮座したい」とのこと、一首、詠まれてご披露なさいました。

「国」の春の例祭

蔡先生のお気持ちがよくわかります。がしかし、御年八十歳、まだまだお元気で日本を叱咤激励していただきたいものです。

締めは、当会常務理事・林建良氏の閉会の挨拶「私は、蔡焜燦さんになりたい」「台湾独立の誓い」と、蔡先生との熱い友情と師弟愛を語り会場をしんみりとさせ、万歳三唱にてお開き。

終始、蔡先生持ち前の語り口とユーモアに乗せられ、盛り上がり、会場が感動と、笑いと、楽しさで一体となった、あつという間の二時間でした。